

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目							
科目名	国語国文学特別研究							
担当教員	池谷 知子					科目ナンバー	MJ6010	
学期	通年／Full Year		曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文を書く							
授業の概要	日本語学・日本語教育に関係するテーマで修士研究を書くことを目指します。 まず、研究倫理を遵守したデータ採集など、研究者としての基本的な姿勢について学びます。 次に、採取した用例やデータをどのような視点、枠組みで分析するのかなど、論文を書くための技法を身につけながら、論文を作成していきます。 同時に、学会発表をすることも視野に入れ、学会発表やポスター発表をするための方法や技術を身につけます。 そのため、積極的に研究会や学会にも参加することを期待します。							
到達目標	① 日本語・日本語教育の分野で高度な知識を身に付けることができる。【知識・理解】 ② テーマについて独自の研究を進め、社会に発信することができる。【態度・志向性】 ③ 研究倫理を深く理解し、データの取り扱い、個人情報の保護、文献や資料の引用など研究倫理に反することがないような意識をもつことができる。【研究倫理】							
授業計画	<前期> 第1回 修士論文とは 第2回 研究倫理について～研究倫理の基本「ねつ造」「改ざん」「盗用」について～ 第3回 研究倫理について2～著作権について～ 第4回 各分野の研究テーマ1 テーマのリストアップ 第5回 各分野の研究テーマ2 先行研究のリストアップ 第6回 データ収集の方法 第7回 データの分析 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて個別指導 1 はじめに 第10回 各自のテーマについて個別指導 2 先行研究 第11回 各自のテーマについて個別指導 3 分析方法の選択 第12回 各自のテーマについて個別指導 4 分析方法の応用 第13回 中間発表の準備 1 第14回 中間発表の準備 2 第15回 前期のまとめ <後期> 第16回 学会発表の応募の仕方 第17回 要旨の書き方 第18回 発表の準備 第19回 レジューメ、ポスター、スライドの作り方 1 レジューメのまとめかた 第20回 レジューメ、ポスター、スライドの作り方 2 PPTのまとめ方 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答 第22回 各自のテーマについて個別指導 1 データの確認 第23回 各自のテーマについて個別指導 2 データのまとめ 第24回 各自のテーマについて個別指導 3 分析結果の解釈 第25回 各自のテーマについて個別指導 4 分析結果の修正 第26回 各自のテーマについて個別指導 5 結論 第27回 各自のテーマについて個別指導 6 まとめ 第28回 修士卒業論文の完成 1 内容を整える 第29回 修士卒業論文の完成 2 形式を整える 第30回 論述口頭試問							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：事前に渡された論文あるいは資料を読んでくる。＜学習時間2時間＞ 事後学習：授業内で出された課題について調べてくる。＜学習時間2時間＞ 発表があたっている時は、わかりやすい資料を作成しプレゼンテーションを行う。 それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、修士論文作成につなげていくこと。							
授業方法	講義と各自の発表や個人指導を中心に行う							
評価基準と評価方法	修士論文50% 【到達目標①と③に関する到達度の確認】 口頭試問30% 【到達目標①と③に関する到達度の確認】 最終発表20% 【到達目標①、②、③に関する到達度の確認】							

履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。
教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国語国文学特別研究						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	MJ6010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文を書く						
授業の概要	日本語学・社会言語学・方言学に関係するテーマで卒業研究を書くことを目指します。 まず、研究倫理を遵守したデータ採集など、研究者としての基本的な姿勢について学びます。 次に、採取した用例やデータをどのような視点、枠組みで分析するのかなど、論文を書くための技法を身につけながら、論文を作成していきます。 同時に、学会発表をすることも視野に入れ、学会発表やポスター発表をするための方法や技術を身につけます。 そのため、積極的に研究会や学会にも参加することを期待します。						
到達目標	① 日本語・社会言語学・方言学の分野で高度な知識を身に付けることができる。【知識・理解】 ② テーマについて独自の研究を進め、社会に発信することができる。【態度・志向性】 ③ 研究倫理を深く理解し、データの取り扱い、個人情報の保護、文献や資料の引用など研究倫理に反することがないような意識をもつことができる。【研究倫理】						
授業計画	<前期> 第1回 修士論文とは 第2回 研究倫理について～研究倫理の基本「ねつ造」「改ざん」「盗用」について～ 第3回 研究倫理について2～著作権について～ 第4回 各分野の研究テーマ1 第5回 各分野の研究テーマ2 第6回 データ収集の方法 第7回 データの分析 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて個別指導1 第10回 各自のテーマについて個別指導2 第11回 各自のテーマについて個別指導3 第12回 各自のテーマについて個別指導4 第13回 中間発表の準備1 第14回 中間発表の準備2 第15回 前期のまとめ <後期> 第16回 学会発表の応募の仕方 第17回 要旨の書き方 第18回 発表の準備 第19回 レジューメ、ポスター、スライドの作り方1 第20回 レジューメ、ポスター、スライドの作り方2 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答6 第22回 各自のテーマについて個別指導1 第23回 各自のテーマについて個別指導2 第24回 各自のテーマについて個別指導3 第25回 各自のテーマについて個別指導4 第26回 各自のテーマについて個別指導5 第27回 各自のテーマについて個別指導6 第28回 修士卒業論文の完成1 第29回 修士卒業論文の完成2 第30回 論述口頭試問						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：事前に渡された論文あるいは資料を読んできると。＜学習時間2時間＞ 事後学習：授業内で出された課題について調べてくる。＜学習時間2時間＞ 発表があたっている時は、わかりやすい資料を作成しプレゼンテーションを行う。 それ以外にも、自分の選んだ修士論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、修士論文作成につなげていくこと。						
授業方法	講義と各自の発表や個人指導を中心に行う						
評価基準と評価方法	修士論文50% 【到達目標①と③に関する到達度の確認】 口頭試問30% 【到達目標①と③に関する到達度の確認】 最終発表20% 【到達目標①、②、③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。						

教科書	必要があれば適宜プリントを配布する。
参考書	

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習ⅠA						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	MJ509A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	消滅の危機に有る方言の記録						
授業の概要	消滅の危機に有る方言の記録として、文法書、辞書、注釈付き談話資料を作る。						
到達目標	(1) 知識・理解： a. 自然言語の音韻が理解できる。 b. 自然言語の文法が理解できる。 c. 日本語の多様性に意識的である。 (2) 汎用的技能： a. 学説が必ずしも定まっていなことに意識的である。 b. 事物の構造に意識的である。 c. 科学的分析の基礎が実践できる。 (3) 態度・志向性： 授業を通じて、研究の種を掴む。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 日本語の社会的状況 03: 日本語の危機方言 04: 危機方言概観 05: 音声から文字への転写 06: 文の構造 07: 語の構造 08: アプリを利用した自動注釈 09: 自動注釈を行なうための形態素分析 10: 自動注釈を行なうための辞書編纂 11: 音韻の記述 12: 語形成の記述 13: 統語構造の記述 14: 全体のまとめと期末課題指導 15: 期末課題添削						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 授業前学習（毎週2時間）：教員が指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習（毎週2時間）：授業内容の復習と期末課題の準備。						
授業方法	(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。 (3) 提出課題のうち、学習効果の高いものは、匿名処理を施して、受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	(1) 授業内課題：50% 到達目標（1, 3）の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。 (2) 期末課題：50% 到達目標（2, 3）の確認。 授業内容に即した論理的文章の作成。						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	川原 繁人（2018）『ヴィジュアル音声学』三省堂 https://www.sanseido-publ.co.jp/np/detail/36532/ 窪蘭 晴夫（2006）『アクセントの法則』岩波書店 https://www.iwanami.co.jp/book/b265874.html						
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習ⅠB						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	MJ509B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	アクセント、声調、イントネーションの理解と音響分析の実践						
授業の概要	アクセントと声調との違いを理解したのち、語彙的音調を音響分析するための方法を学ぶ。						
到達目標	(1) 知識・理解： a. アクセントと声調との違いを掴む。 b. 語彙的音調と文法的音調との違いを掴む。 c. 音声を機器で可視化する方法を掴む。 (2) 汎用的技能： a. 学説が必ずしも定まっていないことに意識的である。 b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。 c. 科学的実験が計画・遂行できる。 (3) 態度・志向性： 授業を通じて、修士論文の種を掴む。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 東京式アクセントの特徴 (1) 03: 東京式アクセントの特徴 (2) 04: 東京式アクセント方言の音声分析 (1) 05: 東京式アクセント方言の音声分析 (2) 06: 上記分析結果の検討 (1) 07: 上記分析結果の検討 (2) 08: アクセントと声調との違い (1) 09: アクセントと声調との違い (2) 10: 語声調方言の音声分析 (1) 11: 語声調方言の音声分析 (2) 12: 上記分析結果の検討 (1) 13: 上記分析結果の検討 (2) 14: 全体のまとめと期末課題指導 15: 期末課題添削						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 授業前学習（毎週2時間）：教員が指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習（毎週2時間）：授業内容の復習と期末課題の準備。						
授業方法	(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。 (2) 提出課題のうち、学習効果の高いものは、匿名処理を施して、受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	(1) 授業内課題：50% 到達目標 (1, 3) の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。 (2) 期末課題：50% 到達目標 (2, 3) の確認。 授業内容に即した音声データの作成。 特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	川原 繁人 (2018) 『ヴィジュアル音声学』三省堂 ISBN-13: 9784385365329 https://www.sanseido-publ.co.jp/np/detail/36532/ 窪蘭 晴夫 (2006) 『アクセントの法則』岩波書店 ISBN-13: 9784000074582 https://www.iwanami.co.jp/book/b265874.html						

参考書	服部 四郎 (1951)『音声学』(岩波全書131) 岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979)『新版 音韻論と正書法』大修館書店 窪 蘭 晴夫 (1999)『日本語の音声』(現代言語学入門2) 岩波書店 早田 輝洋 (1999)『音調のタイポロジー』大修館書店
-----	---

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義ⅡA						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ－	MJ507A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法の復習と理解の深化をめざして（品詞、語順、活用、格関係、文法カテゴリー①）						
授業の概要	本授業では、日本語の文法を復習しつつ、さらに知識や理解を深めていくための講義を行う。忘れていた事項や習っていない事項もあるかもしれないが、理解と知識の定着のために、丁寧に進めていく予定である。授業計画の内容について講義形式で行っていくが、相互にやりとりをしながら進めていきたい（その中で、ちょっとした課題を課し、発表してもらうこともあり得る）。						
到達目標	(1) 授業内で学んだことをふまえ、日本語の文法に関する諸問題について自ら課題を見つけることができる。（知識・理解(1)および(2)） (2) 課題について、分析・考察することができる。（知識・理解(2)および汎用的技能(1)）						
授業計画	1. イントロダクション 2. レジュメの作り方／要約の仕方 3. 学校文法について 4. 品詞①（用言） 5. 品詞②（体言） 6. 品詞③（付属語） 7. 語順①（形態的類型論） 8. 語順②（文法カテゴリー） 9. 活用①（活用の種類） 10. 活用②（接辞） 11. 述語と項①（意味役割） 12. 述語と項②（格の階層性） 13. ヴォイス①（受身、使役） 14. ヴォイス②（その他） 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回で、次回の内容に関してどの程度理解があるのかの確認も含めて導入をするので、指示（用語の確認や、論文を読んでくること等）に従って予習をしてくること。（学習時間：3時間） 授業時だけでは知識の定着は望めないため、必ず復習をすること。（学習時間：1時間）						
授業方法	基本的には講義形式だが、受講生とのディスカッションによって議論を深めていくことを前提とする。また、一部演習形式を取ることもある。						
評価基準と評価方法	参加度50%（到達目標(1)に関する到達度の確認）、レポート50%（到達目標(1)(2)に関する到達度の確認）						
履修上の注意	授業に積極的に参加すること。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義ⅡB						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	MJ507B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法の復習と理解の深化をめざして（文法カテゴリー②、複文、その他）						
授業の概要	本授業では、日本語の文法を復習しつつ、さらに知識や理解を深めていくための講義を行う。忘れていた事項や習っていない事項もあるかもしれないが、理解と知識の定着のために、丁寧に進めていく予定である。授業計画の内容について講義形式で行っていくが、相互にやりとりをしながら進めていきたい（その中で、ちょっとした課題を課し、発表してもらうこともあり得る）。						
到達目標	(1) 授業内で学んだことをふまえ、日本語の文法に関する諸問題について自ら課題を見つけることができる。（知識・理解(1)および(2)） (2) 課題について、分析・考察することができる。（知識・理解(2)および汎用的技能(1)）						
授業計画	1. イントロダクション 2. 授受表現 3. テンス 4. アスペクト①（テイル形） 5. アスペクト②（諸方言のアスペクト） 6. ムード①（対事的） 7. ムード②（対人的） 8. 連体修飾 9. 副詞と連用修飾 10. 複文 11. 主語と主題 12. 造語法 13. 指示詞 14. 語用論 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回で、次回の内容に関してどの程度理解があるのかの確認も含めて導入をするので、指示（用語の確認や、論文を読んでくること等）に従って予習をしてくること。＜3時間＞ 授業時だけでは知識の定着は望めないため、必ず復習をすること。＜1時間＞						
授業方法	基本的には講義形式だが、受講生とのディスカッションによって議論を深めていくことを前提とする。また、一部演習形式を取ることもある。						
評価基準と評価方法	参加度50%（到達目標(1)に関する到達度の確認）、レポート50%（到達目標(1)(2)に関する到達度の確認）						
履修上の注意	授業に積極的に参加すること。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育演習ⅠA／日本語教育演習A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバー	MJ512A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および関連領域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ、活用していくことを念頭に、日本語及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	① 客観的に母語である「日本語」について高度で専門的な知識を獲得し、考えることができる。【知識・理解】 ② 日本語を母語としない者の視点に立って自ら設定した課題について、独創的な知見を示すことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 SLA研究とはどんな学問か 第3回 近年のSLA研究 第4回 研究テーマの設定 第5回 研究テーマの方法 第6回 SLA研究の種類 第7回 先行文献の集め方 第8回 先行文献の読み方 第9回 研究テーマの設定の方法 第10回 リサーチプランの作成 第11回 リサーチプランの構成 第12回 研究テーマの発表1（担当者が各自のテーマを発表し、議論する） 第13回 研究テーマの発表2 第14回 研究テーマの発表3 第15回 振り返りとまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。＜2時間＞ 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。 事後学習：出された課題や問題について解いてくる。＜2時間＞						
授業方法	講義＋演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を含む						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。 発表：授業参加・積極性：60% 【到達目標①と②に関する到達度の確認】 課題あるいはレポート：40% 【到達目標①と②に関する到達度の確認】						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育演習ⅠB／日本語教育演習B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバー	MJ512B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および関連領域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ、活用していくことを念頭に、日本語及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	① 客観的に母語である「日本語」について高度で専門的な知識を獲得し、考えることができる。【知識・理解】 ② 日本語を母語としない者の視点に立って自ら設定した課題について、独創的な知見示すことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 研究の背景の書き方 第3回 研究の目的・研究課題・仮説 第4回 研究の方法 第5回 研究データの集め方1 アンケート・インタビューのデータ 第6回 研究データの集め方2 コーパスのデータ 第7回 実験実施上の留意点 第8回 データ集計の方法1 第9回 データ集計の方法2 データ入力 第10回 データ集計の方法3 エクセルを使った集計 第11回 結果から結論・考察の導き方 第12回 研究テーマの発表1（担当者がテーマを発表して、質疑応答する） 第13回 研究テーマの発表2 第14回 研究テーマの発表3 第15回 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。＜2時間＞ 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。 事後学習：出された課題や問題について解いてくる。＜2時間＞						
授業方法	講義＋演習（ディスカッション・プレゼンテーションを含む）						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。 発表：授業参加・積極性：60% 【到達目標①と②に関する到達度の確認】 課題あるいはレポート：40% 【到達目標①と②に関する到達度の確認】						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育特殊講義IIA						
担当教員	F. Shiobara					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	言語習得・異文化理解						
授業の概要	このコースでは、異文化理解とそれが言語習得にどのような影響を与えるかについて紹介する。特に、異文化理解が言語教師にどのように役立つかに焦点を当てます。						
到達目標	1. 異文化間のコミュニケーションと、異文化間のコミュニケーションを助ける方法について理解を深める。【態度・志向性】【知識・理解】 2. 自分の意見を他の生徒と話し合えるようになる。【知識・理解】 3. 人前で日本語によるプレゼンテーションができるようになる。【汎用的技術】						
授業計画	第1課 異文化コミュニケーションとは何か？What is cross-cultural communication? 第2課 アイデンティティー 自分のアイデンティティを定義し、なぜアイデンティティを理解することが重要なのか。: Identity: Defining your own identity and why understanding identity is important. 第3課 同化と文化化 Assimilation and acculturation 第4課 氷山文化論 The iceberg theory of culture 第5課 隠された文化 Hidden culture 第6課 ステレオタイプ Stereotypes 第7課 日本人のステレオタイプ Stereotypes of Japanese people 第8課 言語と文化 Language and culture 第9課 慣用語と文化 Idioms and culture 第10課 非言語コミュニケーション Non-verbal Communication 第11課 パーソナルスペースとボディランゲージ Personal Space and Body Language 第12課 多様性 Diversity 第13課 性別と文化 Gender and Culture 第14課 さまざまな文化を持つ人々が交流できるように、紹介活動やゲームを準備する。Prepare introductions and games to help people from different cultures interact. 第15課 アクティビティを発表する。評価 Present the activities. Evaluation						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各レッスンでは、学生は短いトピックを準備してディスカッションを行うことが求められる。（2時間） 学生は、振り返りレポートを書くことやプレゼンテーションを行うために、レッスンを復習することが求められる。（2時間）						
授業方法	実習：このクラスは英語と日本語で行われる。教材はすべて両言語で提供される。クラスではグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れる。ICT：オンライン教材とオンラインリサーチを幅広く使用する。						
評価基準と評価方法	ディスカッション準備 80% 模擬レッスン 20%						
履修上の注意	このクラスは反転授業の形式で実施される。学生は授業前に予習と準備をしておくこと。 学生はディスカッションに積極的に参加すること。						
教科書	Teacher's materials						
参考書	Introducing Language and Intercultural Communication Jane Jackson ISBN 978-1-138-48161-9						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育特殊講義IIB						
担当教員	F. Shiobara					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	言語習得・異文化理解						
授業の概要	このコースでは、異文化理解とそれが言語習得にどのような影響を与えるかについて紹介する。特に、異文化理解が言語教師にどのように役立つかに焦点を当てます。						
到達目標	1. 異文化間のコミュニケーションと、異文化間のコミュニケーションを助ける方法について理解を深める。【態度・志向性】【知識・理解】 2. 自分の意見を他の生徒と話し合えるようになる。【知識・理解】 3. 人前で日本語によるプレゼンテーションができるようになる。【汎用的技術】						
授業計画	第1課：異文化コミュニケーションの復習。文化とは何か？Review of Intercultural communication. What is culture? 第2課：認識 Perceptions 第3課：時間の概念。単線的時間と多元的時間 Concepts of Time. Monochronic and Polychronic 第4課：コミュニケーションスタイル：男性性と女性性の概念。Communication Styles: Concepts of Masculinity and Femininity 第5課：言語におけるジェンダー Gender in Language 第6課：コミュニケーションスタイル：意見を述べる Communication Styles: Giving Opinions 第7課：ミーティングスタイルと割り込み Meeting styles and interrupting 第8課：価値観 Values 第9課：価値観の方向性フレームワーク Value Orientation Framework 第10課：個人主義と集団主義 Individualism and Collectivism 第11課：異文化間関係 Intercultural Relationships 第12課：カルチャーショック Culture Shock 第13課：逆カルチャーショック Reverse Culture Shock 第14課：日本文化と他文化の比較 Comparison of Japanese and another culture 第15課：比較文化のプレゼンテーション。評価 Presentation of Comparative Cultures. Evaluation						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各レッスンでは、学生は短いトピックを準備してディスカッションを行うことが求められる。（2時間） 学生は、振り返りレポートを書くことやプレゼンテーションを行うために、レッスンを復習することが求められる。（2時間）						
授業方法	実習：このクラスは英語と日本語で行われる。教材はすべて両言語で提供される。クラスではグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れる。ICT：オンライン教材とオンラインリサーチを幅広く使用する。						
評価基準と評価方法	ディスカッション準備 80% プレゼンテーション 20%						
履修上の注意	このクラスは反転授業の形式で実施される。学生は授業前に予習と準備をしておくこと。 学生はディスカッションに積極的に参加すること。						
教科書	Teacher's materials						
参考書	Introducing Language and Intercultural Communication Jane Jackson ISBN 978-1-138-48161-9						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文化演習A						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	『狭衣物語』巻三上 講読						
授業の概要	藤原定家によって最高の出来映えと賞賛された『狭衣物語』を原文で読んでいきます。語彙や語学の学力を引き上げながら、日本語を母語としない方に、古典文化を如何に楽しんでもらうか、具体的に考えていきます。この作品は古写本に恵まれている特性をもつので、古典籍の読解、文化財に触れるスキルも身につけていきます。						
到達目標	(1) 語学・文化に関する基礎学力を補強しつつ『狭衣物語』を原文で読み理解できる。【知識・理解】 (2) 理解を土台に、日本語を母語としない方へプレゼンテーションする方途を模索する。【知識・理解】 (3) 日本文化に関する古典籍の扱いや読み方に習熟する。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 『狭衣物語』概説 第2回 帰洛 第3回 若宮後見 雪の朝 第4回 入道宮の悲嘆 第5回 今姫君 洞院上と狭衣 第6回 今姫君の悲劇 第7回 今姫君の喜劇 第8回 常盤訪問 第9回 今姫君の悲喜劇 第10回 一品宮 第11回 闖入 露顕 第12回 入道宮と若宮 第13回 不如意な結婚 第14回 後朝 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業内容を一定水準以上、授業時間内に理解するため、配付資料に基づき次の授業で読み進む古典文学本文の予定部分を音読、不明な語義・語法・古典常識を予め下調べしておく。〈2時間〉 授業後学習：古典文学本文について、より高度な読解力を身につけるため、特に語義、語法、古典常識の理解で授業を通じて気づいた点を修正して作品内容を自力で理解できるかを検証し、あわせて日本語を母語としない方への伝達法を考えてみる。〈2時間〉						
授業方法	講義中心。但し、受講者の基礎学力の確認を重要視し、事前学習と講義内容に基づいた分かち合いに重きを置く。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 到達目標 授業で取り扱った事に関し (1) (2) に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標 授業で取り扱った事に関し (1) に関する到達度の確認。 授業への取り組み・発問姿勢 10% 到達目標 (1) (2) (3) に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・欠席を慎む。						
教科書	適宜プリント、あるいはデータで配布する。						
参考書	新潮日本古典集成『狭衣物語』下（新潮社） 全訳王朝文学叢書『狭衣物語』下（王朝文学叢書刊行会・クレス出版） 日本古典全書『狭衣物語』下（朝日新聞社） 新編日本古典文学全集『狭衣物語』下（小学館） 中田剛直『校本狭衣物語』巻三（桜楓社）						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文化演習B						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	『狭衣物語』巻三下 講読						
授業の概要	前期の学習を発展する。『狭衣物語』の原文を読みながら基礎学力の向上を図ると共に、日本語教師として日本語を母語としない方に日本の古典文化に興味関心をもってもらう工夫を探る。併せて古典籍に触れ、その読解、文化財に触れるスキルを身につける。						
到達目標	(1) 古典文学に関する基礎学力を伸ばし、最高峰の古典文学を原文で読み理解できる。【知識・理解】 (2) 日本語教師として日本語を母語としない方に日本の古典文学と文化の特徴を説明できる。【知識・理解】 (3) 古典籍の扱いを知り、それを日本語を母語としない方に伝達できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 妻を拒絶 裳着 第2回 女一宮の寂寥 小宰相 第3回 愛猫 一周忌 第4回 葵祭 御禊 第5回 齋院の美貌 第6回 宮の少将の妹 明星 第7回 出家決意 若宮との決別 第8回 神夢 両親の警戒 第9回 賀茂詣 扇の歌 第10回 五節の頃 源氏宮と院の女御 第11回 桜人 垣間見 第12回 姫宮への恋 院の女御の出産 第13回 母の悩み 狭衣に与えるか 第14回 出家と返歌 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業内容を一定水準以上、授業時間内に理解するため、配付資料に基づき、次の授業で読み進む予定部分を音読、不明な語義・語法・古典常識を予め下調べする。〈2時間〉 授業後学習：古典文学本文について、より高度な読解力を身につけるため、特に語義・語法・古典常識の理解で授業を通じて気づいた点を修正し、作品内容を自力で理解できるかを検証し、あわせて日本語を母語としない方への伝達法を考える。〈2時間〉						
授業方法	講義中心。但し、受講者の基礎学力の確認、事前学習と講義内容に基づいた分かち合いに重きを置く。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 到達目標 授業で扱った事に関し (1) (2) に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標 授業で扱った事に関し (1) に関する到達度の確認。 授業への取り組み・発問姿勢 10% 到達目標 (1) (2) (3) に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・欠席を慎む。						
教科書	適宜プリント、あるいはデータで配布する。						
参考書	新潮日本古典集成『狭衣物語』下（新潮社） 全訳王朝文学叢書『狭衣物語』下（王朝文学叢書刊行会・クレス出版） 日本古典全書『狭衣物語』下（朝日新聞社） 新編日本古典文学全集『狭衣物語』下（小学館） 中田剛直『校本 狭衣物語』巻三（桜楓社）						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習A／日本文学演習IIA						
担当教員	梶尾 文武					科目ナンバー	MJ504A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	三島由紀夫作品研究						
授業の概要	日本近代文学の諸作品をメインテーマとし、各作品の問題点、課題を検討する。併せて、対象作家および関連作家の諸作品、文学思潮、文学理論等についても、最新の情報、最新の研究成果を盛りこみ、大学院生諸君の研究能力を高める。						
到達目標	高校までの国語と、大学以降で研究する文学との違いを理解した上で、より深く、文学作品を楽しみ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できるようになること【汎用的技能】。とくに今回は三島由紀夫の短編小説を扱い、学術性を備えたレポートを執筆する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 レジューメ作成・レポート執筆の方法 第3回 「花ざかりの森」を読む 第4回 「煙草」を読む 第5回 「獅子」を読む 第6回 「親切な機械」を読む 第7回 「真夏の死」を読む 第8回 「鍵のかかる部屋」を読む 第9回 「詩を書く少年」を読む 第10回 「橋づくし」を読む 第11回 「スタア」を読む 第12回 「憂国」を読む 第13回 「剣」を読む 第14回 「英霊の声」を読む 第15回 「荒野より」を読む／まとめ *進め方や対象作品は変更する場合がある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	第三回以降、参加者は事前に対象作品を精読すること。毎回1名にレジューメにもとづいた発表を行なってもらおう。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	演習形式。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。必要に応じてmanabaを活用する。コースニュースで必要事項を適宜、伝達し、掲示板へ書き込みをしてもらうことにする。						
評価基準と評価方法	上記の到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等40%、レポート試験60%とする。						
履修上の注意	授業時には積極的な発言を全員に求める。						
教科書	三島由紀夫『戦後とは何か』（中央公論新社） ISBN-13: 978-4120058714						
参考書	『文芸時評大系』（ゆまに書房） 『決定版 三島由紀夫全集』（新潮社） 上記の他は授業中に指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習B／日本文学演習IIB						
担当教員	梶尾 文武					科目ナンバー	MJ504B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本の詩作品を読む						
授業の概要	戦後詩・現代詩を読むことにより、日本文学の全貌に迫る。						
到達目標	日本文学、日本文化、および、芸術各方面について、先行研究を的確に把握した上で独創的な知見を示すことができる。【汎用的技能】						
授業計画	1 導入 2 田村隆一 3 鮎川信夫 4 黒田喜夫 5 谷川雁 6 石原吉郎 7 吉岡実 8 谷川俊太郎 9 大岡信 10 茨木のり子 11 堀川正美 12 入沢康夫 13 天沢退二郎 14 鈴木志郎康 15 金井美恵子 * 数字は授業回数ではなく、テーマとなる項目を示す。 * 対象となる詩人・作品は変更となる場合がある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日本文学全般に目配りし、様々な文献を精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	演習形式。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。 必要に応じてmanabaを活用する。コースニュースで必要事項を適宜、伝達し、掲示板へ書き込みをしてもらうことにする。						
評価基準と評価方法	到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。 その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要。						
教科書	大岡信編『現代詩の鑑賞101』新書館（ISBN 978-4403250316）						
参考書	開講時に指定する。						